

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 28 日

事業所名 ケアステキっず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	必要なスペースは確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	50%	50%	配置数は適切な人員を確保できている。	男性職員が少なく増員することが望ましい為、採用活動を継続している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	75%		事業所内に段差があるが、必要に応じて介助する等、個別対応をしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	38%	63%	管理者・常勤職員で行っている。	職員全体での参加ができるように調整が必要。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	63%	38%	毎年、事業所の自己評価及び保護者のアンケートを行っている。	アンケート回収後の改善策が不十分で、翌年度も同じ内容になってしまっていることがある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	事業所HPで公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	第三者評価は実施していない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	38%	63%	毎月のミーティングと外部研修への参加も促している。	外部の研修に参加できる環境作りを行う。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	88%	13%	家族様と面談も定期的に行っている。	面談を希望されない方へのアプローチを検討している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	88%	13%	法人で共有のソフトを利用していて、	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	38%	63%	担当職員が毎月プログラムを検討している。	プログラムの固定化にならないように、児童に案を頂く機会を設けるなどするのも必要である。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	50%	50%	人気のプログラムはある程度固定にしているが、その他は新しい活動を盛り込むようにしている。	人気のプログラムが偏っていることもあるので、楽しい活動の種類を増やしく必要がある。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50%	50%	個別の課題の他に外出プログラムなども計画している。	必要に応じて課題設定を行っているが、定期的な見直しが必要。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	63%	38%	個々に課題を設定している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	50%	50%	情報共有システムを日々活用している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	38%	63%	情報共有システムを利用して必要事項を共有している。	PC操作に不慣れな職員もいるため、ソフトだけではなく、対面での情報共有を強化する必要がある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	38%	63%	日々記録システムを利用して記録をとっている。	PC操作に不慣れな職員もおり、入力する記録の質や量にバラつきがある点は要改善。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	88%	13%	毎月モニタリングを実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	75%	25%	ガイドラインに基づいて活動を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	88%	13%	常勤のスタッフで該当児をよく把握している者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	88%	13%	必要時にメールや電話で連絡を取っている。	メールでの連絡だと気づかないことも多く、保護者からはLINEの使用を希望されることが多いため検討中。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療ケアが必要な児童の利用はない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	25%	75%	就学前の施設に見学に行くことや、電話などで情報収集をするようにしている。	家族様と相談して必要時のみ実施している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25%	75%	必要時には情報提供を行っている。	家族様と相談して必要時のみ実施している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%	専門機関との連携はあまりできていない。	専門機関との関わりが少ないので、事業所から関わりをもてるように働きかける必要がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	25%	75%	今年度は実施できていない	今後は外部との交流機会を作れるよう検討が必要。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	75%	25%	協議会には参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	63%	38%	計画書更新の都度希望者と面談を実施している。	面談を希望されない方へのアプローチを検討している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	13%	88%	実施できていない。	ペアレント・トレーニングできる知識・技術を身につけるための職員研修が必要
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	88%	13%	契約時や変更があった際に都度連絡し説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	38%	63%	保護者からの相談には電話やメールにて都度対応している。	電話での相談が多いが、必要に応じて面談の回数を増やすこともある。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	38%	63%	イベント開催時を家族様同士の交流の場をしている。	事業所でのイベント時に家族様同士の交流を目指しているが、場を設けるだけでなく、交流を促すための工夫・配慮が必要。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	63%	38%	職員間での共有を行い、迅速に対応を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	63%	38%	SNSを利用して情報発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	研修も実施し、十分に注意するように周知している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	50%	50%	絵カードの利用やスケジュール表を作成し、活動しやすい環境を作るように心がけている。	絵カードの他要望があれば、作成・提供するようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%	今年度は実施できていない。	今後は外部との交流機会を作れるよう検討が必要。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	88%	13%	HP上で公表している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	消防署の方に来ていただき、訓練を実施している。	児童にも参加していただき、毎年イベントとして実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	88%	13%	研修を実施し、職員間でのミーティングでも共有している。	定期的に研修を実施し、研修内容には日々の虐待関連のニュース等も盛り込むようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	50%	50%	対象となる児童がいない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	カロリー制限であったり、アレルギー等については、事前に家族様に確認をし提供時職員間での確認を再度行う	医師の指示書の確認はしておらず、家族様に確認をして対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	事業所内で作成をして、情報共有システムを利用し職員間で共有している。	